

令和5年度 第1回三島市廃棄物処理対策審議会 会議録

1. 日時

令和5年7月24日（月）午後2時00分から午後3時40分まで

2. 場所

三島市役所本館3階 第1会議室

3. 出席者

【委員】：今川委員、内田委員、遠藤委員、大淵委員、長島委員、野田(千)委員、野田(好)委員、早川委員、平井委員、平川委員、三浦委員、矢岸委員、山田委員、渡邊委員

※五十音順 14名が出席

【オブザーバー】 新井映子氏

【事務局】：臼井環境市民部長

廃棄物対策課：橋本課長、原副参事、鈴木副参事、江間課長補佐、鈴木課長補佐、山添主査

4. 会議の公開・非公開の別

公開

5. 傍聴人

0名

6. 審議会の内容

(1) 開会

(2) 委嘱状交付

年度切り替えによる役職交代等により、新たに委員となった今川委員、大淵委員、野田(千)委員、三浦委員に対し、市長から委嘱状を交付した。

(3) 諮問

市長から平井会長に諮問書の交付

諮問事項：三島市食品ロス削減推進計画について

(4) あいさつ

豊岡三島市長、平井会長

(5) 新任委員の自己紹介

今回、新たに就任された4人の委員が自己紹介を行った。

(6) 議題

①三島市のごみ処理状況について【資料1】

<事務局から資料に基づき説明>

<質疑応答>

委員：粗大ごみ戸別収集については、秋田市の大雨で、各家庭で水浸しになった大量の災害廃棄物が発生し、戸別収集を実施することだが、三島のように普段から戸別回収のシステムがあれば災害時等スムーズにいくと思うので、ぜひ続けていただきたい。

事務局：粗大ごみ戸別収集につきましては、今後も継続して実施していきたいと考えている。

委員：災害廃棄物処理計画について今年度何か変更等があるか？

事務局：三島市災害廃棄物処理計画については、平成29年3月に策定、令和3年3月に改訂を行い、今年度、災害廃棄物ハンドブックを作成し、市内全戸配布する予定である。

委員：市民1人1日あたりのごみ排出量が、15年ほど前、人口10万人以上の市の中で一番多かったことを忘れないように、情報として掲載しておくべきではないか。

それから、最終処分場の残余容量が6,200 m³ということだと、そろそろ次の処分場を考えたほうがいいと思うが、候補地は決まっているのか？

事務局：他市町との比較の中で、三島市の数値が非常に悪かった時点の情報について、確認したうえで掲載する。

最終処分場の新しい埋立地については、令和10年度から供用開始できるよう、準備を進めている最中で、現在、スケジュールどおり進んでおり、令和7年度から建設工事を開始し、9年度までの3か年で工事を終了させ、令和10年度から、第4処分場を使用するという形で計画している。

委員：焼却灰のリサイクルとして、例えば何か形を変えて物を作るとか、焼却灰をさらに減らす努力、取組をしているか？

事務局：焼却灰の有効利用については、現在、最終処分場が逼迫している状況で、外部搬出という形をとっており、今後の有効利用も検討しているが、おそらく倍近い経費がかかると思われるため、財政的なことも含めて、検討していく。

委員：ちなみにどういった利用方法があるのか。

事務局：例えば、道路の路盤材や建築タイル等に混ぜて使用する方法がある。

②三島市食品ロス削減推進計画（案）について【資料2-1・2、参考資料】

<事務局から資料に基づき説明>

<質疑応答>

委員：賞味期限と消費期限について、賞味期限が切れたら食べない方がかなり多く、スーパーなどでも賞味期限切れで捨てられる食品が多いと思うので、法律などで、すべての食べ物に消費期限を記載することができれば、食べずに捨てられてしまうものは少なくなると思う。

事務局：賞味期限を過ぎたものを食べても、健康に害があるようなことはすぐには起きないとは思いますが、すべての食べ物への消費期限の記載については難しいと思う。

委員：私のごみ減量アドバイザーを始めたときには、三島市が市民1人1日あたりのごみ排出量ワーストワンだった頃で、ごみ減量アドバイザーの方が工夫をしながら、スーパーで消費期限間近な商品の売り方など、草の根運動で行ってきた活動が、ごみ排出量が減ってきた一因でもあると思う。

委員：消費期限、賞味期限については、日本の商取引のルールとしてあるが、少し法律も動くようなことは言われている。食品会社では多額の経費を使ってパッケージングとかしているからまず大丈夫だと思う。このようなことを本当に、学校、特に義務教育あたりから繰り返し伝えていくのがまず一番必要だと思う。食べられるのは、どこまでという判断は難しいと思うので、捨てるはいけないということだけは、教育の力を大いに活用できると思う。

委員：以前、市主催の食品ロス削減に向けた料理講座と、健康料理教室に参加した。食品ロス削減の料理講座では、根本の部分まで使うなど、食品を無駄なく活用する調理方法を教えてもらった。しかし、健康料理教室では、調理の段階で食品ロスが発生していた。食品ロス削減に向けた活動に関して、市役所内における横の連携により、食品ロスを出さないよう全体的な活動としてほしい。

事務局：承知した。次回の作業部会等で他部署に伝えるようにしたい。

委員：コンポストなど生ごみ処理容器を積極的に配布していけば、清掃センターに運ばれる食品ロスは減ると思う。

事務局：すでにコンポスト等生ごみ処理容器の無償貸与を実施しているため、さらに周知を徹底し、清掃センターに運ばれる食品ロスの削減を推進したい。

委員：地球温暖化について、今、二つ大きな重要課題があって、その一つがエネルギー関係で、日本でも令和3年6月に経済産業省が策定したグリーン成長戦略に基づき、GX（グリーントランスフォーメーション）を進めており、エネルギーの安全保障が重要となっている。

もう一つは、食料の安全保障の問題で、カロリーベースの食料自給率を見ると、日本の食料自給率は非常に低く、2030年までに農水省は食料自給率を55%に上げていきたいとのことだが、非常に困難な状況である。もしこれから温暖化がどんどん進んでいくと、今、日本に食料を輸出してくれている諸外国も、自国が困ってくれば日本に輸出する食料はないという話になる。市民一人ひとりがこのような状況を理解するとともに、自覚と責任をもって食品ロス削減に真剣に取り組んでいく必要がある。また行政にも市民へのさらなる情報の発信が必要であると感じている。

委員：食糧安全保障について、地球上の様々なところで人口爆発が起こっており、気候変動により今後食料が足りなくなる可能性が出てきている。食べ物はいつ無くなるか分からない状況であることから、食べ物に感謝し、食べ残し等の食品ロスを減らしていくことを常に行動できるような人間であることが大事である。たとえ話になるが、JR東海の新幹線車内では、新幹線を降りるときは、次の方のために座席を元に戻してほしいという放送を続けた結果、ほとんどの乗客が座席を戻してから降りていくようになった。このように、食品ロス削減についても、広報し続けることが非常に重要で、食品ロスは喫緊の課題なので、とにかく目先のことではなくて地球規模で、今、自分が何をすべきか、何をしてはいけないのか、発信を続けていただきたい。

(7) 連絡事項

- ・本日の議題に対する意見、改めて気づいた点等がある場合は、「ご意見等連絡票」に記入し、8月7日（月）までに事務局への提出を依頼。
- ・次回の審議会は、10月開催を予定しており、日時・会場等決定次第、開催の案内通知を送付。

(8) 閉会